

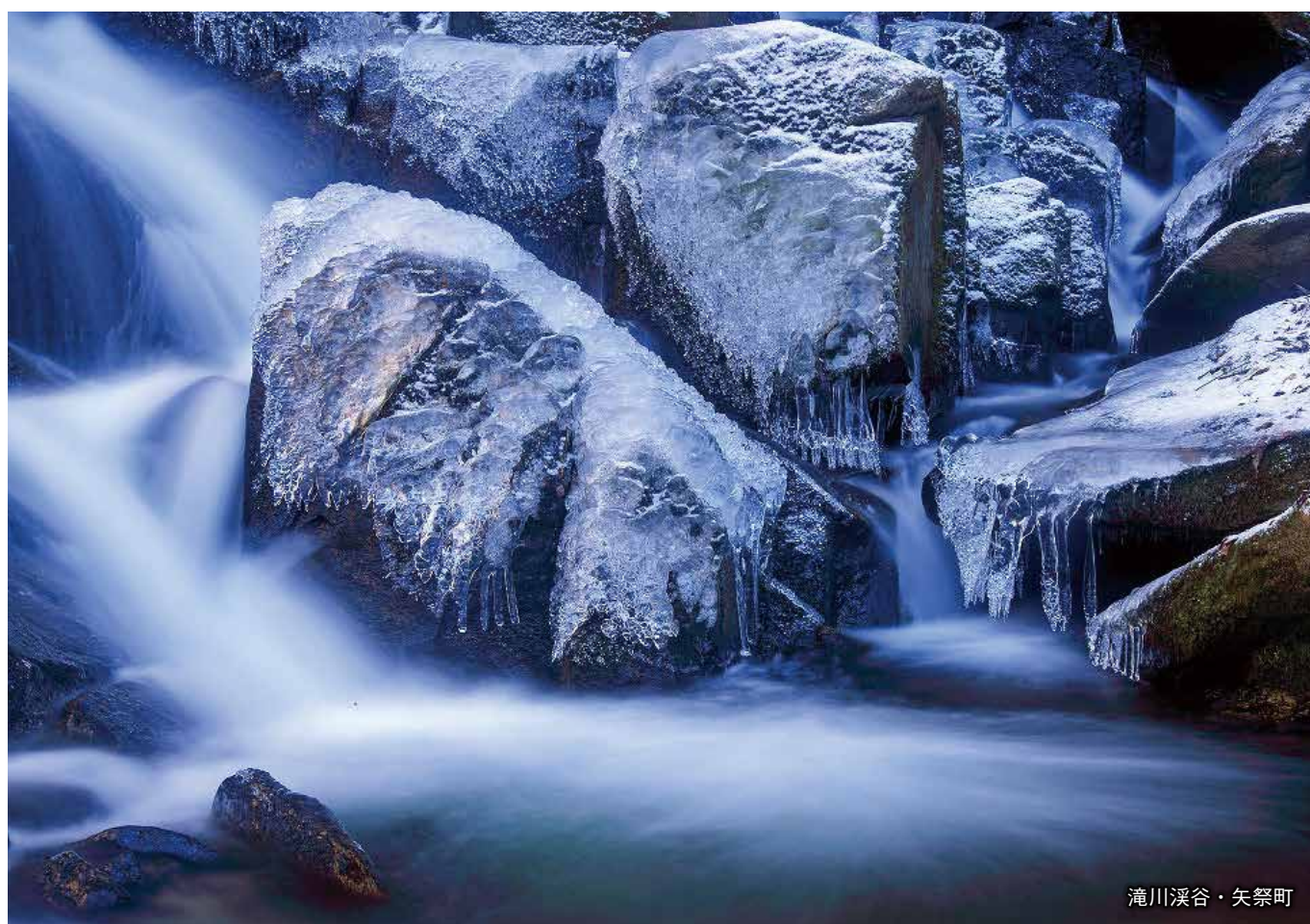


地域と医療を結ぶ広報誌

風によせて

Shirakawa Kosei General Hospital

VOL.
53
2020.1
KAZENI
YOSETE



滝川溪谷・矢祭町

CONTENTS

- | | | | |
|-------------------------|---|----------------------|-----|
| ●ごあいさつ…………… | 1 | ●学術奨励賞を受賞…………… | 4 |
| ●日本がんサポーターケア学会に参加して………… | 2 | ●第37回地域医療連携協議会開催………… | 4 |
| ●連携医療機関の紹介…………… | 2 | ●院内ニュース…………… | 5・6 |
| ●特集…………… | 3 | ●トピックス…………… | 7 |

特集

残薬を減らそう



JA福島厚生連
白河厚生総合病院



ごあいさつ salutation



病院長
白河総合診療センター長
前原 和平



今月の表紙
Cover Story

【滝川溪谷・矢祭町】

散策路内に見事な四十八滝が連続する県内でも珍しい秘境の地で、「福島県の遊歩道 50 選」の第 10 位にも選ばれました。

「謹賀新年」

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

令和の御代となって初めての新年、白河では美しい初日の出を拝むことができました。皆様良いお年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年は子年ですが「子」は元「孳」という文字で、新しい生命が種子の中に芽生え始める状態を表しているそうです。新しいことを始めるのに良い年のように思います。

復興五輪を掲げた東京オリンピックでは 3 月 26 日に広野町の J ビレッジから聖火リレーがスタートします。東日本大震災から速いもので 9 年になろうとしています。3 月 4 日には帰還困難区域であった双葉町の一部で初めて避難指示が解除されます。未だ道半ばと言える福島の復興が実りある形で進んでいくことを祈りたいと思います。

本年が皆様お一人お一人にとりまして、希望に満ちた明るい年になりますことを祈念申し上げますとともに、職員一同、弛まず診療と教育の充実を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和 2 年 1 月 病院長

白河厚生総合病院について

基本理念

地域を守り地域の皆様に
愛される病院を目指します

基本方針

私たちは

- 一、医療、保健、福祉事業を通して地域住民の健康を守り、豊かな暮らしに貢献します
- 一、県南の中核病院として関係機関との連携を深め、地域医療の向上に努めます
- 一、患者さんを全人的に理解し、優しさと思いやりをもって接します
- 一、十分に説明をし、患者さんの意志を尊重した医療を実践します
- 一、使命を自覚し、たゆまず研鑽を積んで医療の質の向上と人材の育成に努めます

当広報誌『風によせて Vol.52』の表紙写真の場所について、一部誤りがございました。深くお詫び申し上げますとともに、次のとおり訂正させていただきます。

【誤】滝川溪谷・鮫川村 【正】滝川溪谷・矢祭町 誠に申し訳ございませんでした。

日本がんサポーターブケア学会に参加して

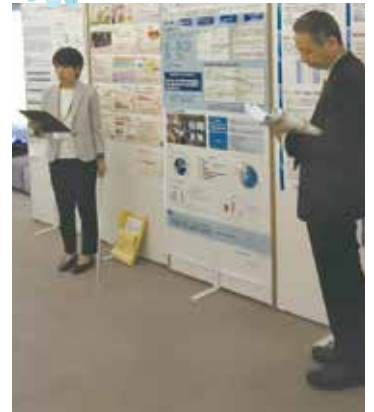
リハビリテーション科 近藤 和弘



がん診療におきまして、当院では様々な勉強会や活動を行っておりますが、今回 9 月 5 ～ 6 日に開催された日本がんサポーターブケア学会（以下ケア学会）に参加したのでご報告します。ケア学会とはがん医療における包括的な支持医療の教育、診療、研究を通して国民の福祉に寄与することを目的に行われる学会で、今年は青森で2日間開催されました。ケア学会に当院からは緩和ケアチーム活動の「骨メタカンファレンス」の発表を―題、また「骨メタカンファレンス」のワークショップを企画して、全国のがん医療にかかわるスタッフと共に多職種でのカンファレンスの重要性を議論しました。

当院では骨メタカンファレンスを整形外科、放射線科の先生をはじめ、多くのスタッフの協力を頂きながら、毎月開催しております。

ケア学会を通して、今後も皆さんに寄り添える医療を提供して参ります。



医療連携 連携医療機関の紹介

山本歯科医院



山本歯科医院の山本光政です。平成 4 年に開院し、平成 17 年に現在地に移転して今日に至ります。主に一般歯科、小児歯科、口腔外科の治療を行っています。歯科治療にあたっては、自分の家族や自分が受けたいと思うような治療を、患者さんに提供したいと考えています。

医療連携では、白河歯科医師会として、白河厚生総合病院の入院患者さんに対し、同病院の NST 専従看護師さん、言語聴覚士さんとチームを組み、毎月 2 回、口腔ケアラウンドを実施しております。

患者さんの高齢化に伴い、最近是有病者の歯科治療が外来においても多くなっています。私たちは少しでも患者さんの生きる力の手助けになればと思っています。これからも地域医療に少しでも役立てるように、努めて参りたいと思います。



診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	休診
14:30～19:00	○	○	○	休診	○	○	休診

※木曜午前のみ、土曜 17:00 まで、臨時休診あり

●住所／〒961-0971 福島県白河市昭和町 148-5

●TEL／0248-24-2888

残薬を減らそう

— 薬剤科 鈴木 茂太 —



★残薬とは？

みなさんは、「残薬」という言葉を耳にされたことはありますか？

残薬とは処方されたお薬が、飲み忘れなどの理由で残ってしまったことを言います。いつか必要になるとの思いでこれらのお薬をご自宅に貯めてはいませんか？厚生労働省により行われた薬局調査では、残薬のある患者さんは全体の9割という結果でした。

残薬の推定年総額はとても深刻で475億円にまでの上ると言われています。これは医療費国家予算の約4.1%に相当します。残薬を減らすことは、この国家予算が有意義に使われるためにとても重要なことです。この他にも残薬を減らしたい理由はいくつかあります。

★残薬を減らしたい理由

残薬が医療費国家予算の負担になってしまう以外に、残薬が手元にあるまま新たに処方された薬を受け取った場合、これらを混同して使用したり、残薬の期限が切れていることに気が付かず使用したりなど、薬を正しい用法・用量で使用することが難しくなります。その結果、患者さんに悪影響を及ぼしかねません。他にも、以前と同様の症状だと自己判断してお薬を服用することで症状が悪化してしまうこともあります。このような事例を防ぐため、次の残薬対策がなされています。

★残薬対策

- ・数種類の薬を飲んでいる患者さんの飲み忘れ対策として、複数の医院・診療科からのお薬を管理しやすい形にする。(例)用法(朝・昼・夕)毎に管理できるよう一包装
 - ・残薬の有無を確認しての処方日数の調整
 - ・お薬カレンダー・服薬ボックスを作成しての管理
 - ・直接、ご自宅に薬剤師等が訪問しての残薬の管理
- これ以外にも様々な対策が取られています。

★近くの薬局等に相談する

薬局を活用して残薬を見直すことにより、処方日数の調整(再利用)や、飲み忘れ対策等が可能となります。

まず、薬剤師が残薬数を確認し、医師へ処方日数の調整を提案します。

次に、患者さんの要望から、医師へ生活習慣に合った用法への変更などを提案し今後の残薬防止対策をします。*服薬が困難なお薬については、錠剤から粉薬など飲みやすい薬の形への変更等も提案することができます。

ぜひ一度、薬局で相談してみましょ。尚、相談する際は、残薬と薬の袋や説明用紙、お薬手帳等を持参してください。

令和元年度福島県診療放射線技師学会 学術奨励賞を受賞

放射線科 村山 滉治

この度、令和元年 11 月 10 日（日）に行われた、令和元年度福島県診療放射線技師学会において、平成 30 年度に研究発表した MRI 部門での「頸椎における脂肪抑制法の比較検討」が学術奨励賞を頂くことができました。各セッションで優秀だった研究におくられるものなので、大変嬉しく思っております。

まず、MRI の脂肪抑制法について説明します。この方法は、脂肪の中に隠れた病変を見つけたり、炎症や造影された部位を見やすくしたりすることが出来ます。脂肪抑制法には様々なものがあり、撮像している時間や部位、患者さんの状態に合わせて当院では使い分けています。

今回の受賞研究では脂肪がきれいに抑制されない時がある頸椎の撮像に注目し、最適な脂肪抑制法は何なのかをファントムや健常ボランティアを撮像し比較検討を行いました。その結果、患者さんの状態や撮像する部位を考慮して、より最適な脂肪抑制法を選択し、従来よりも診断価値の高い検査が出来るようになりました。

MRI は被曝することがなく、様々な組織コントラストや断面の画像を提供することが出来る大変有用な検査です。今回の受賞を励みに、今後も臨床に生かせる検査技術の提供ができるよう自己研鑽していきたいと思っています。



第37回地域医療連携協議会開催 地域医療連携室

第 37 回地域医療連携協議会を令和元年 11 月 5 日に開催いたしました。当日は院内外から 51 名の皆様のご参加をいただきました。まず、「CD トキシンの感染対策について」感染管理認定看護師の丸山師長より説明いたしました。施設入所の方が CD トキシン陽性だと陰性化するまで施設に戻ることができず、退院支援が滞ってしまった事例があり院内の問題となっておりました。今回話題提供をしたことで施設での受け入れの検討に役立てていただきたいと考えております。

次に、当院で経験した「退院支援困難事例について」退院支援看護師の坂本師長より報告をいたしました。今回は様々な方のご尽力を得て在宅移行できましたが、地域全体の問題として考えていかなければならないとの思いを深くした内容でした。



NEWS

01

白河厚生総合病院附属高等看護学院 第59回継灯式

令和元年10月26日(土)、第59回生の継灯式が学院講堂で行われました。式典では、前原和平学院長が「患者さんはみなさんの優しさや思いやりによって安堵し励まされます。温かい心をもって患者さんに接するように心がけてください」とあいさつしました。1年生36名は、JA福島厚生連森合理事長をはじめ、厚生連各病院の看護部長、白河厚生総合病院看護師長・臨地実習指導者など多くの病院関係者と保護者に囲まれ、ナイチンゲールにともされた火を、一人ひとり蝋燭に移しとり、厳かに灯火の継承が行われました。1年生を代表して斉藤榛那さんが「支えてくださっている方々への感謝の気持ちを忘れずに、患者さんの立場に立って物事が考えられる素敵な看護師になることを約束致します。」と御礼の言葉を述べました。今後行われる本格的な実習に向け、看護師になることへの決意を新たにしました。



第14回白河厚生総合病院解剖慰霊祭

NEWS

02

令和元年11月9日(土) あおき白河斎苑にて、第14回白河厚生総合病院解剖慰霊祭がしめやかに執り行われました。ご遺族、医師、看護師等の職員が多数参列し、医学の発展のため、ご遺体を本院における解剖に献体された故人の御霊に対し、ご冥福をお祈りいたしました。

出席者全員で御霊に黙祷を捧げ、前原和平院長の追悼の辞に引き続き、研修医代表の大内啓志医師が感謝の言葉を捧げました。その後、参列者全員により献花が行われました。



NEWS

03

看護部文化祭

今年度の文化祭は、コンセプトを「ホッとする空間づくり」として11月13日(水)から15日(金)に開催いたしました。外来フロアでは、受診の待ち時間に見て頂ければと思い、職員手作りのハーバリウム、クリスマスリース、クラフトテープバックなどの作品を展示いたしました。

バザー会場では、小物にポップを付けたりと装飾の工夫により、優しさ溢れる会場づくりに心がけました。また、『しらかわん』も駆けつけ、小児科外来や病棟で患者さん、家族とふれあい笑顔あふれるひとときを過ごすことができました。

文化祭を通し私たち職員も地域の方と交流を深めることができたことは嬉しく思っております。今後も、地域の皆さんが笑顔になれる文化祭を開催していきたいと考えております。



クリスマスコンサート・小児科病棟クリスマス会開催

NEWS

04

令和元年12月20日(金)、白河厚生総合病院2階大会議室にて、毎年恒例のクリスマスコンサートが開催されました。当日は、職員が扮するサンタクロースやトナカイの迎えを受けた入院患者さんと一緒に、職員で結成された聖歌隊によるクリスマスソングや看護学院の生徒によるハンドベル演奏、当院職員によるピアノ・フルート・バイオリンの3重奏、さらにKYOKOさん、矢吹ヶ原グリークラブのみなさん、クール・ドゥ・ソワのみなさんによる心温まる演奏や歌声に耳を傾けながら、和やかなクリスマスのひとときを過ごしました。また、12月24日(火)には小児科病棟においてクリスマス会が開催され、サンタクロースに扮した前原院長から入院している子どもたちへクリスマスプレゼントを贈りました。



台風19号の水害被害により災害派遣医療チーム(DMAT)派遣

NEWS
05

令和元年10月13日(日)～15日(火)、台風19号の水害被害により災害救助支援のため災害派遣医療チーム(DMAT)を派遣しました。

10月13日(日)派遣メンバーは、医師1名、看護師2名、事務員1名 計4名で構成し、チームは病院救急車にて白河市内の土砂崩れによる人命救出時の対応のため現地まで向かいました。その後水害による救急対応が見込まれ院内での活動を行いました。10月14日(月)派遣メンバーは、医師2名、看護師3名、事務員1名 計6名で構成し、福島県災害対策本部からの指示により、白河地区及び浅川町の社会福祉士施設を訪問し被害状況等を確認することとなりました。市内6か所・浅川町1か所の社会福祉施設を訪問すると、食事の準備が困難な施設、栄養調整食品の納品が間に合わない施設、また施設が使用できず避難している施設もありました。10月15日(火)派遣メンバーは、医師1名、看護師1名、臨床検査技師1名 計3名で構成し、福島県災害対策本部の指示により、避難している施設患者さんの健康確認を実施しました。



県南地域でも台風19号による水害により施設運営が難しくなっている施設があり、被害は甚大なものでした。

被害にあわれた方々のご冥福を申し上げるとともに、一日も早い復旧を願い、一日も早く通常の生活ができるようお祈り申し上げます。

NEWS
06

『ホワイトコール!発令!?!』

2019年11月11～15日は医療安全推進週間でした。その最後の締めくくりとして、11月15日(金) 15:30に6階西病棟ナースステーションにて事前周知なしの『ホワイトコール』の訓練を行いました。コールを聞きつけて駆けつけてくれたスタッフは、なんと総勢125名!(医師17名、看護師69名、技術28名、事務11名)。そして、医療安全チームによる寸劇『実践!ホワイトコール!』が迫真の演技で行われ、どのような場合に、どのように対処するかをレクチャーし、1階事務所にある刺又(さすまた)、ネットランチャーを用いた実演も行いました。前原院長より「医療機関での暴力事件などは西日本だけの印象だったが、首都圏、東日本でも珍しい事例ではなくなっている。当院も暴力行為STOPポスターを掲示したので注意喚起に努めたい」とのお話があり、終了となりました。

今回の訓練に関して、お集まり頂きました皆様へ感謝申し上げます。今後も医療安全チーム一丸となり、より安全で安心な病院を目指し活動を続けていきたいと思っています。



高齢者らの交通事故防止広報啓発活動実施

ピカッと・カチッと大作戦 夜光反射材・早めのライト点灯『ピカッと光ってセーフティ』

NEWS
07



9月25日、秋の全国交通安全運動の一環として高齢者らの交通事故防止を目的に広報啓発活動を行いました。

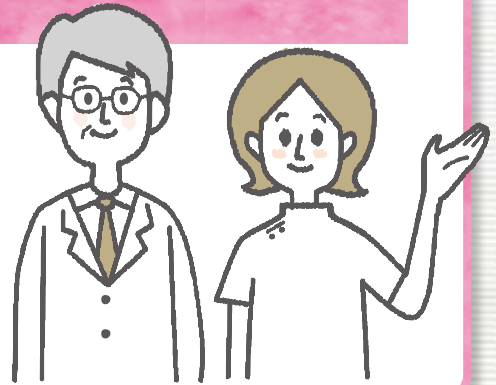
白河警察署員・地域交通安全活動推進委員が病院を訪れ、病院職員と共に病院の出入口および待合室において、病院利用者に反射材のシールやチラシ・ポケットティッシュを手渡し夕暮れ時や夜間の歩行への注意を呼びかけました。また、なりすまし詐欺被害防止のチラシも配布しながら「一人で悩まず相談して下さい」「少しでもおかしいと感じたら家族や警察(110番)に連絡を」と呼びかけました。

面会制限のお願い

インフルエンザの流行期を迎え、院内の面会制限を12月より実施しております。原則としてご家族のみの面会となります。なお、15歳以下のお子様の面会のご遠慮して頂いております。

入院患者への感染を防ぐため必ずマスクを着用し、手洗いを行ってくださいようお願いいたします。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



「咳エチケット」にご協力ください。

インフルエンザは、咳やくしゃみにより飛ばされた飛沫（しぶき）によって感染します。

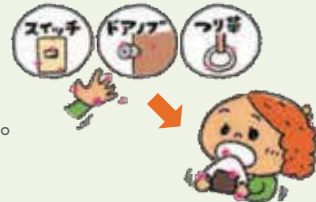
ひ まつ かん せん 飛沫感染

- ①感染者の咳やくしゃみと一緒にウイルスが放出される。
- ②別の人がそのウイルスを口や鼻から吸い込み感染する。



せつしよく かん せん 接触感染

- ①感染者が咳やくしゃみを手で押さえる。
- ②その手で周りの物に触れてウイルスが付く。
- ③別の人がそのものに触れてウイルスが手に付く。
- ④その手で口や鼻を触って粘膜から感染する。



感染を広げないために、一人ひとりが「うつさない」「かからない」対策を実践しましょう。

※手洗い場が近くがない時（外出時など）はウェットティッシュでも代用できます。

院内感染対策委員会

